

令和7年3月24日

豊坂小学校保護者 各位

幸田町立豊坂小学校長 伊藤 美佳

豊坂小学校教育診断アンケート結果及び分析等について

早春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は本校教育にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

さて、過日お願いしました学校教育診断アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。その集計結果をもとに2月6日に学校運営協議会議を開催し、委員の方から貴重なご意見を頂きました。ここに、アンケートの集計結果と委員の方から頂いたご意見をもとにした今後の学校運営のまとめをお届けします。よりよい豊坂小学校をめざして職員一同、一層の努力をしてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

A…よくあてはまる（そのように思う）	回答数 児童(4～6年)	227名
B…ややあてはまる（どちらかというとそのように思う）	保護者(全学年)延べ	444名
C…あまりあてはまらない（どちらかというとそのように思わない）	回収率 児童	100%
D…まったくあてはまらない（まったくそのように思わない）	保護者	98%
E…わからない（該当しない）		

※ 四捨五入の関係で1%程度の誤差があります。

1 楽しい学校

対象	番	評価項目	A+B
児童	3	学校へ来るのが楽しい。	93%
保護者	3	お子さんは、学校へ行くのを楽しみにしている。	89%

コロナ禍の終息後1年以上が経ち、以前のように落ち着いた生活に戻ることによって、学校に楽しく登校できる児童が増えたと考えられる。

2 あいさつ

対象	番	評価項目	A+B
児童	4	元気にあいさつや返事ができる。	91%
保護者	4	お子さんは、あいさつや返事がよくできる。	86%

代表委員会を中心に、学校全体であいさつに取り組んでいる成果が見て取れる。今後も元気なあいさつができるよう取り組みを継続していきたい。

3 行事

対象	番	評価項目	A+B
児童	5	学校の行事（運動会や相撲大会・学芸会など）は、積極的に参加している。	93%
保護者	5	お子さんは、運動会、学芸会、すもう大会、マラソン大会などの学校行事に積極的に参加している。	90%

積極的に行事に取り組むことのできる豊坂っ子の良さが表れている。児童は行事によって大きく成長するので、児童にとって魅力がある行事になるように工夫・改善を重ねていきたい。

4 自治活動

対象	番	評価項目	A+B
児童	6	委員会活動には、意欲的に参加している。	91%
児童	7	学級の係活動などに責任をもって取り組んでいる。	87%
児童	14	自分の目標や学級のめあてをやりとげようとがんばっている。	86%
児童	15	学級に問題があったとき、みんなで協力して解決できる。	91%
保護者	6	お子さんは、委員会活動や係活動、当番活動に意欲的に参加している。	86%

自分の責任を果たそうとする児童の姿が見て取れる。児童が今まで以上に主体的に活動できるような内容、運営方法を工夫をしていくことが必要だと考える。

5 授業

対象	番	評価項目	A+B
児童	8	授業は分かりやすい。	91%
児童	9	授業では、進んで自分の意見や感想などを発表している。	80%
児童	10	授業では、友達の見や感想をしっかり聞くようにしている。	96%
児童	13	授業のふり返りや感想、日記などに自分の思いや感想を進んで書いている。	71%
保護者	9	学校は、ドリルタイムや少人数指導・ティームティーチング（複数教師による指導）等により基礎学力の定着を図ろうとしている。	59%

児童が自ら学習に取り組もうとする姿勢が明らかになった。教員の研究の成果が出ている。今後も研鑽を重ねて、楽しく分かりやすい授業を目指す。

6 体力チャレンジ

対象	番	評価項目	A+B
児童	11	体力チャレンジ（かけ足・なわとびなど）は、積極的に取り組んでいる。	85%
保護者	7	学校は、体力チャレンジや行事、授業等を通して体力の増強と健康の増進を図っている。	89%

酷暑と、暑い時期の長期化により、思うように活動できないことも多かったが、安全に注意しながら取り組んできた。児童の体力、運動能力の維持・向上は大きな課題であるので、教育活動の中に位置づけていきたい。

7 読書と朝の活動

対象	番	評価項目	A+B
児童	12	読書の時間は楽しい。	74%
保護者	8	学校は、読書等を重視し、豊かな心を育てようとしている。	80%

朝の読書の時間を、さらに充実させていきたい。ボランティアによる読み聞かせ、6年生の1年生に対する読み聞かせなど、本の楽しさを感じるための試みも続けていきたい。

8 自信（自己有用感）

対象	番	評価項目	A+B
児童	17	学校での生活の中で、自信をもっていることがある。	76%
保護者	10	先生や学校は、子どもの能力や意欲を適切に判断し認め、子どもに自信を持たせようとしている。	81%

昨年度に比べ、児童の自己有用感の低下が気になる。教員としては児童が自信をもてるような声かけ等を心掛けているが、その効果がさらに上がるような取り組みを工夫していきたい。

9 悩み・いじめ

対象	番	評価項目	A+B
児童	18	いやなことを言われたりされたりしたことが	74%
保護者	11	お子さんは、いやなことを言われたりされたりして、長い間悩むようなことはなかった。※悩んだことが無い時：AかBを選択	67%
児童	16	友達のいやがることはしないように、悪口は言わないようにしている。	91%

児童 18 の回答について、児童が答えやすいように今年度次のように変更した。A:なかった B:あったが、悩まなかった C:あって、悩んだが解決した D:あって、今も悩んでいる D と回答した児童への対応が急務である。普段から温かい学校の雰囲気づくりに全力で取り組んでいく。

10 友達

対象	番	評価項目	A+B
児童	19	自分が困ったりなやんだりしたとき、相談したり助け合ったりできる友達がいる。	85%
児童	22	とよさかタイムで友達と話すことは楽しい。	88%
保護者	12	お子さんは、相談できたり協力できたりする友達が学校にいて言っている。	81%

多くの児童に支え合うことのできる友達がいることは喜ばしいことである。それ故、C、D と回答した児童のことが気がかりである。よりよい人間関係づくりができるように支援していきたい。

11 先生への信頼

対象	番	評価項目	A+B
児童	20	自分が困ったりなやんだりした時、相談できる先生がいる。	85%
児童	21	わたしたちの気持ちを考え、がんばりを分かってくれる先生が学校にはいる。（担任の先生以外にいる場合でもよい）	89%
保護者	13	先生や学校は、いじめや問題行動に対して真剣に動いてくれる。	65%
保護者	14	先生や学校は、子どものことについて気軽に相談できる雰囲気がある。	75%
保護者	15	先生や学校は、子どもの気持ちをよく理解し、認めてくれる。	78%

引き続き、児童に安心して相談してもらえるような教員と児童の関係構築に努力していく。また、保護者との連携をさらに密にして、教員の取り組みを理解していただき、協力体制づくりに努めていく。

12 良い関係づくり

対象	番	評価項目	A+B
保護者	18	学校は、保護者や地域の人たちと良い関係づくりに努めている。	91%

今後も保護者、地域の皆様に支えてもらえるように学校づくりに努めていく。

13 安全・安心

対象	番	評価項目	A+B
保護者	16	学校は、地震や風水害の場合について適切に対応し、安全・安心な学校づくりに努めている。	82%
災害に対する備えは常にアップデートしていく。保護者、地域の皆様とも、これまで通り連携して安全・安心な学校づくりに努めていく。			

14 通信・お知らせ

対象	番	評価項目	A+B
保護者	17	学校は、通信や学校ホームページ等を通して学校の方針や様子が分かるようにしている。	82%
校長通信等で、学校全体の教育方針は伝わっていると考えている。また、ホームページのブログで学校の様子を知らせる活動は今後も続けていきたい。			

15 その他

対象	番	評価項目	A+B
保護者	19	学校から出される通知表の評価は、納得のいくものになっている。	90%
今後も、明確な根拠による評価を心掛け、児童・保護者から信頼される評価を目指す。			

アンケート結果を踏まえた今後の学校運営について

- ① 全体

全体としては、ほぼ80%以上の良い評価をいただいた。今後も、児童が安心して頑張れる学校づくりに取り組んでいきたい。
- ② 楽しい学校

「学校へ来るのが楽しい」の設問でA Bを選択した児童、保護者は80%を超えている。「学校の行事には積極的に参加している」設問も児童・保護者ともに、この数年90%以上の高い数値が続いている。行事に積極的に参加できる児童が多いのは豊坂小学校の特徴である。また、「授業は分かりやすい」と回答した児童も多く、学校で充実した生活を送っている児童の姿が見て取れる。授業と行事に前向きに取り組める雰囲気のあることが、魅力ある学校の条件である。このことを大切にして、これからも教育活動に取り組んでいきたい。
- ③ あいさつ

あいさつと返事は、温かい人間関係づくりに欠かせない生活習慣の基本である。児童の意識を高めていきたい。特に登下校など、校外においても、校内と同じように、元気なあいさつができるように支援していきたい。
- ④ 教師への信頼関係

児童と教師との温かい信頼関係は、学校教育の土台となるものである。児童設問の「相談できる先生がいる」は、児童で85%の数値を得ている。今後も、担任に限らず、どの教師にも相談しやすい状況づくりや、学級における心理的安全性を醸成する方法を模索し、児童、保護者からの信頼がさらに得られるように工夫していきたい。
- ⑤ 自信（自己有用感）

「学校での生活の中で、自信もっていることがある」と答えられる児童が増えるように、これまでと同様、児童の挑戦しようという意欲の掘り起こしと、その挑戦を後押しし支えながら成功体験を積ませることで、自己有用感を高めていきたい。
- ⑥ 自治活動

自分たちの生活を自分たちでよりよくしようという姿勢は、社会生活の基礎となるものである。今後は、毎日の当番など、地味であるが皆が快適に生活していくための仕事が各委員会にあるので、そうした活動を大切にして、自分たちの学校生活をよりよいものにしていこうとする姿勢を育みたい。
- ⑦ コミュニケーション能力

「人の嫌がることをしたり、言ったりしたことはない」と多くの児童が答えているが、その反面、嫌な思いをして悩んだ経験のある児童も多い。自分の気づかないところで相手に嫌な思いをさせてしまうことも多いと考えられるので、自分の言動に対して、相手がどう感じるかを考えられるように、コミュニケーション能力の伸長を図る必要性を強く感じる。